親の面接チェックリスト

１．親御さん自身に関して面接全般からの判断

① 面接への協力　□協力的、□投げやり、□過度に気を使う、□攻撃的

② 一般的な理解力　□困難はない、□困難がある

（あるの場合の内容　　）

③ 優位感情　□うつ傾向、　□適度、□ハイテンション

④ 感情の幅　□幅が少ない、□適度、□起伏が激しい

⑤ 不安　□不安が強い、□適度、□不安がなさすぎる

⑥ 思考　□時々思考がゆっくりになる、□適切、□話が飛ぶ

⑦ 会話への集中　□集中できる、□集中できない

⑧ お子さんへの態度　□過度に気にする、□適度、□無関心な傾向がある

２．親御さんの体験に関して

① 語ること　□落ち着いて話せる、□全く語れない、□部分的に語る、□不安が強い
□語りだすと止まらない

② 近親者が亡くなった　□あり、□なし、□回答できない

（ありの場合　誰が？　どのようにわかったか？）

③ 近親者の行方不明　□あり、□なし、□回答できない

（ありの場合　□生還した　いつ頃？　　□ご遺体が見つかった　いつ頃？
□未だにご遺体は見つかっていない）

④ 親戚や友人の喪失体験　□あり、□なし、□回答できない

⑤ 家族の誰かが怪我や病気になった　□あり、□なし

（ありの場合　内容　　）

⑥ 津波の目撃　□あり、□なし、□回答できない

⑦ 津波に浸かった体験　□あり、□なし、□回答できない

⑧ 津波に流された体験　□あり、□なし、□回答できない

⑨ 流されている人を見た　□あり、□なし、□回答できない

⑩ 火災を目撃した　　□あり、□なし、□回答できない

⑪ 爆発音を聞いた　　□あり、□なし、□回答できない

⑫ ご遺体の目撃（除く安置所）　□あり、□なし、□回答できない

⑬ 安置所でご遺体を確認した　□あり、□なし、□回答できない

⑭ 被災時に大切な方と別れ離れになった　□あり、□なし、□回答できない

⑮ 原発の爆発の音を聞いた　□あり、□なし、□回答できない
⑯ 原発からの避難が必要となった　□あり、□なし、□回答できない
⑰ 避難所生活　□あり、□なし、（ありの場合の期間　　）
⑱ 親戚の家での生活　□あり、□なし　（ありの場合の期間　　）
⑲ 壊れたままの自宅での生活　□あり、□なし　（ありの場合の期間　　）
⑳ 仮設住宅での生活　□あり、□なし　（ありの場合の期間　　）
㉑ 原発事故により制限された生活（外出・水・食品などに関して）□あり、□なし
（ありの場合　　）
㉒その他の重要な体験　□あり、□なし
（ありの場合　　）

3．お子さんの体験に関して
① お子さんと一緒にいられるようになったのは　□当日の夕方～夜、□翌日の朝、□翌日中、□それ以降
② お子さんの友達や知り合いが亡くなった　□あり、□なし、□不明
③ ペットがいなくなった　□あり、□なし、□不明
④ お子さんは津波を目撃した　□あり、□なし、□不明
⑤ お子さんは津波に浸かった　□あり、□なし、□不明
⑥ お子さんは津波に流された体験をした　□あり、□なし、□不明
⑦ お子さんは流されている人を見た　□あり、□なし、□不明
⑧ お子さんは火事を目撃した　□あり、□なし、□不明
⑨ お子さんは爆発音を聞いた　□あり、□なし、□不明
⑩ お子さんはご遺体を目撃した　□あり、□なし、□不明
⑪ お子さんは原発の爆発の音を直接聞いた　□あり、□なし、□不明
⑫ お子さんは避難所生活を体験した　□あり、□なし
⑬ お子さんは親戚もしくは知り合いに預けられる体験をした　□あり、□なし
（ありの場合　誰と？　いつ頃？　どのぐらいの期間？）
⑭ お子さんは津波の映像を繰り返し見た　□あり、□なし
⑮ お子さんは原発事故の映像を繰り返し見た　□あり、□なし
⑯ 原発事故により制限された生活（外出・水・食品などに関して）□あり、□なし
（ありの場合　　）
⑰その他重要な体験　□あり、□なし
（ありの場合　　）

4．家族に関して
ジェノグラムで記載（祖父母の代まで）
被災前と被災後に関してわかるように記載する

５．保護者の精神的な反応に関して

質問紙でのチェックを確認しながら質問で補う

（放射線被曝に関する反応に対しても聴取）

６．お子さんの精神的な反応に関して

質問紙でのチェックを確認しながら質問で補う

（放射線被曝に関する反応に対しても聴取）

７．保護者の身体的な問題

８．保護者の精神的な問題

９．子どもの身体的な問題

１０．　子どもの精神的な問題

子ども面接チェックリスト

１．基本的な認知レベル

□年齢相応、□遅れの可能性がある、□遅れが強く疑われる

２．面接の全体

① 協力的か？　□協力的に答える、□非協力的、□怒りを向ける

② 親子分離　□可能、□不可能、□保育士さんのサポートなどがあれば可能

③ 動き　□適切、□多動、□動きが少ない

④ 行動　□やや乱暴な行動が目立つ、□適切、□遊びや会話への乗りが悪い

⑤ 会話への集中　□集中できる、□注意転動が激しい、□ボーとしていて集中しない

⑥ 面接者との距離　□適切、□治療者に身体接触してくる、□なかなか近づけない

⑦ 面接者への信頼　□面接者に頼ることができる、□面接者に頼れない

⑧ 優位感情　□適度、□うつ的、□ハイテンション、□その他

⑨ 感情の幅　□適度、□フラット、□起伏が激しい

⑩ 感情の適切性　□適切、□奇異な感情表現

⑪ 不安　□適度、□強すぎる不安、□不安がなさすぎる

⑫ 会話の流れ　□適切に答える、□質問をしても殆ど答えない、□話し出すと止まらない、□こちらの問と違った答えが多い、□会話が成立しない、□会話の流れのリズムが取れない、

⑬ 話のストーリーの展開　□年齢相応、□話が飛んでいくので理解が困難、□話が全く発展しない、□独自の理論展開がある

⑭ 特定なテーマへの回避　□ある、□なし　（あるの場合　　）

⑮ 現実検討識　□適切、□非現実的な話がある

３．生活

① 食欲　□問題なし、□問題あり、□問題の可能性あり、□不明

（ありの場合　　）

② 友人関係　□問題なし、□問題あり、□問題の可能性あり、□不明

（ありの場合　　）

③ 学校での問題　□あり、□なし、□可能性あり、□不明

（ありの場合　　）

④ 睡眠の問題　□あり、□なし、□可能性あり、□不明

（ありの場合　　）

4．家族

① 家族の問題　□あり、□なし、□可能性あり、□不明

（ありの場合の内容

5．暴露に関して

① 思い出して語ること　□できる、□全く語れない、□部分的に語る、□語りだすとその他のことよりハイテンションになる

② 一番怖かったこと

③ 親との分離体験　□あり、□なし

④ 近親者の喪失体験　□あり、□なし　（ありの場合　誰？　　）

⑤ 遠い親戚や友人の喪失体験　□あり、□なし

⑥ その他の喪失体験　（内容　　）、□なし

⑦ 津波の目撃　□あり、□なし、□不明、□ないが本人はあると信じている

⑧ 火災の目撃　□あり、□なし、□不明、□ないが本人はあると信じている

⑨ 津波に浸かった体験　□あり、□なし、□不明、□ないが本人はあると信じている

⑩ 津波に流された体験　□あり、□なし、□不明、□ないが本人はあると信じている

⑪ 流されている人を見た　□あり、□なし、□不明、

⑫ ご遺体の目撃　□あり、□なし、□不明、□ないが本人はあると信じている

⑬ 災害時の怪我の体験　□あり、□なし

⑭ 津波の映像を見た　□あり、□なし

⑮ 原発の爆発の音を実際に聞いた　□あり、□なし

⑯ 原発の爆発の映像を見た　□あり、□なし

⑰ 原発事故により制限された生活（外出・水・食品などに関して）□あり、□なし

（ありの場合　　）

⑱ 子どものストーリーに関して記載

６．その他のトラウマ体験

□あり、□なし、（ありの場合　　年令　　）

７．トラウマ症状（自覚している症状）

① 再体験症状　□あり、□なし、□不明

（ありの場合　　）

② 回避・麻痺症状　□あり、□なし、□不明

（ありの場合　　）

③ 過覚醒症状　□あり、□なし、□不明

（ありの場合　　）

④ その他の症状　□あり、□なし、□不明

（ありの場合　　）

⑤ PTSD　□あてはまる、□症状はあるが診断基準は満たさない、□ない

８．その他の不安症状　□あり、□なし、□不明

（ありの場合　　）

９．うつの症状

□大うつ症の診断基準に当てはまる、□うつを伴う適応障害

□ディスサイミアの診断基準に当てはまる、

□うつの症状はあるが診断基準には当てはまらない

□うつはない

１０．　その他の症状（含　チック、吃音など）

特記すべき症状があったら記載

１１．　診断基準に当てはまる障害があるときにはその障害名

① PDD　□あり、□なし、□可能性あり

② ADHD　□あり、□なし、□可能性あり

③ その他の障害　□あり、□なし

（ありの場合　　）

１２．　その他、気づいたこと

特別なコーピングスタイルなど

「被災と子どものこころの長期的健康調査」　ご協力のお願い

研究の背景・目的

この度の東日本大震災におきまして、東北地方では特に甚大な津波・地震の被害にあわれましたことに心よりお見舞いを申し上げます。

この調査は、今回のような大きな災害が子どものメンタルヘルスおよび精神発達に及ぼす影響を調べること、また、被災により実際にお困りになっていること、メンタルヘルスや健康上の問題などがあれば詳しくお聞きし、支援に役立てることを目的としています。

ご協力をお願いする皆さま

参加していただきたいのは、被災時に保育園の５歳児・４歳児・３歳児のクラスに所属していたお子様とその保護者の方です。

ご協力いただきたい内容

本年度（平成２４年度）より１０年間、毎年１回程度のアンケートおよび面接調査を予定しています。第１回の調査は以下のとおりです。

保護者の方：

アンケート（２種類　各２０分程度）

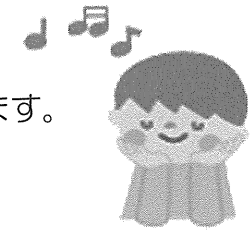
保育園での面接（30 分程度）

お子様：

保育園での面接（30 分程度）

アンケート、面接では被災時の状況や現在の健康状態、生活状況等についてお伺いします。やり方としましては、同意をいただいた方に１種類目のアンケートをお渡ししますので、ご自宅でそのアンケートにご回答いただき、面接にお持ちいただきます。そしてその内容をもとに面接を行います。２種類目のアンケートは、面接終了時にお渡ししますので、その場でご記載いただいてご提出いただくか、もしくはご自宅でご回答いただき、後日ご郵送していただきます。

来年度以降の調査内容も同様の形で、心身の健康状態をお聞きすることを計画しております。詳細が決まり次第お知らせします。



この研究へ参加することのメリットとデメリット

メリットとしては、参加いただいた方には、保護者の方、お子さま共に、面接のときにはもちろん、研究期間中、生活面で、またこころの問題のお悩みなどありましたら、お話を伺い、ご相談に乗ります。通院・通所等の治療のご希望があれば、専門家を紹介いたします。デメリットとしては、本調査の参加にあたっては、アンケート調査回答及び面接のために先述のようなお時間を取っていただくこと、また質問紙の中には不快に感じられる項目がある可能性があることです。

負担軽減費について：

お時間を頂戴することおよび交通費などの負担軽減費として、今年度は一家族につき 3000 円分のクオカードをお渡しいたします。

この研究への参加と同意・同意撤回について

調査参加への同意は任意です。同意はいつでも撤回し、調査の途中でやめることができます。やめたいと思われた方は、末尾の問い合わせ先にあります各県の担当研究チームまでご連絡ください。また、この調査への不参加により不利益を被ることはありません。

個人情報の保護について

ご記入いただきました個人情報は、各県の研究担当チームで研究 ID に変換され集計は ID で行われるので、個人情報が表に出ることはありません。面接内容の情報は、各県の研究担当チームで保管するため、保育園に知られることもありません。研究担当チームは医師、心理士で構成されており、倫理的に守秘義務を負っております。ご提供いただくいかなる情報も本調査以外の目的に使うことはありません。

検査結果のお知らせについて：

臨床的なサポートが必要であると判断された方に関しましては、各県の担当研究チームにより参加者の方に直接ご連絡をさせていただくことがあります。

研究結果の取り扱いについて

研究結果は統計学的に処理されたものが学会や専門誌で発表されます。個別の情報を発表することは本調査の範囲では原則としてありません。ただし、本調査によって明らかになった症状で、医師の治療をお受けになり、その過程で、何らかの形で個別の症例として発表される場合もあるかもしれません。その場合は、医師より別途詳しいご説明を行い、同意を頂いたうえで発表されます。

資料・情報の保存について

ご記入いただきました個人情報および面接内容の情報は、研究終了後、直ちに破棄いたします。

費用について

参加者の方に調査のための費用を負担していただくことはございません。

問い合わせ先

本調査に関するご質問がございましたら、下記の研究者あてご連絡ください。保育園を通してもご質問をいただくことができます。

ご協力をいただけますよう、何卒よろしくお願いいたします。

【お問い合わせ先】

研究者：

保育園の連絡先：

調査分析：独立行政法人国立成育医療研究センター
こころの診療部
部長　奥山眞紀子

Email：seiikukokoro@yahoo.co.jp

「被災と子どものこころの長期的健康調査」　ご協力のお願い

研究の背景・目的

一昨年の東日本大震災におきましては、東北地方は甚大な津波・地震の被害にあわれました。この調査は、今回のような大きな災害が子どものメンタルヘルスおよび精神発達に及ぼす影響を調べること、また、被災されたお子さんとその保護者の皆さまが実際にお困りになっていること、メンタルヘルスや健康上の問題などがあれば詳しくお聞きし支援に役立てることを目的としています。今回、被災地域（岩手・宮城・福島）において、調査を行うことになりましたが、このような調査は被災されていない地域でも行う必要があります。そこで今回、貴地域の皆様にお願いすることとなりました。

ご協力をお願いする皆さま

参加していただきたいのは、東日本大震災発生時に保育園の５歳児・４歳児・３歳児のクラスに所属していたお子様とその保護者の方です。

ご協力いただきたい内容

本年度（平成２４年度）より１０年間、毎年１回程度のアンケートおよび面接調査を予定しています。第１回の調査は以下のとおりです。

保護者の方：

アンケート（２種類　各２０分程度）

保育園での面接（30 分程度）

お子様：

保育園での面接（30 分程度）

アンケート、面接では東日本大震災発生時の状況や現在の健康状態、生活状況等についてお伺いします。やり方としましては、同意をいただいた方に１種類目のアンケートをお渡ししますので、ご自宅でそのアンケートにご回答いただき、面接にお持ちいただきます。そしてその内容をもとに面接を行います。２種類目のアンケートは、面接終了時にお渡ししますので、その場でご記載いただいてご提出いただくか、もしくはご自宅でご回答いただき、後日ご郵送していただきます。

来年度以降の調査内容も同様の形で、心身の健康状態をお聞きすることを計画しております。詳細が決まり次第お知らせします。

この研究へ参加することのメリットとデメリット

メリットとしては、参加いただいた方には、保護者の方、お子さま共に、面接のときにはもちろん、研究期間中、生活面で、またこころの問題のお悩みなどありましたら、お話を伺い、ご相談に乗ります。通院・通所等の治療のご希望があれば、専門家を紹介いたします。デメリットとしては、本調査の参加にあたっては、アンケート調査回答及び面接のために先述のようなお時間を取っていただくこと、また質問紙の中には不快に感じられる項目がある可能性があることです。

負担軽減費について：

また、交通費などの負担軽減費として、今年度は一家族につき 3000 円分のクオカードをお渡しいたします。

この研究への参加と同意・同意撤回について

調査参加への同意は任意です。同意はいつでも撤回し、調査の途中でやめることができます。やめたいと思われた方は、末尾の問い合わせ先にあります各県の担当研究チームまでご連絡ください。また、この調査への不参加により不利益を被ることはありません。

個人情報の保護について

ご記入いただきました個人情報は、各県の研究担当チームで研究 ID に変換され集計は ID で行われるので、個人情報が表に出ることはありません。面接内容の情報は、各県の研究担当チームで保管するため、保育園に知られることもありません。研究担当チームは医師、心理士で構成されており、倫理的に守秘義務を負っております。ご提供いただくいかなる情報も本調査以外の目的に使うことはありません。

検査結果のお知らせについて：

臨床的なサポートが必要であると判断された方に関しましては、各県の担当研究チームにより参加者の方に直接ご連絡をさせていただくことがあります。

研究結果の取り扱いについて

研究結果は統計学的に処理されたものが学会や専門誌で発表されます。個別の情報を発表することは本調査の範囲では原則としてありません。ただし、本調査によって明らかになった症状で、医師の治療をお受けになり、その過程で、何らかの形で個別の症例として発表される場合もあるかもしれません。その場合は、医師より別途詳しいご説明を行い、同意を頂いたうえで発表されます。

資料・情報の保存について

ご記入いただきました個人情報および面接内容の情報は、研究終了後、直ちに破棄いたします。

費用について

参加者の方に調査のための費用を負担していただくことはございません。

問い合わせ先

本調査に関するご質問がございましたら、下記の研究者あてご連絡ください。保育園を通してもご質問をいただくことができます。

ご協力をいただけますよう、何卒よろしくお願いいたします。

【お問い合わせ先】

研究者：

保育園の連絡先：

調査分析：独立行政法人国立成育医療研究センター
こころの診療部
部長　奥山眞紀子
Email：seiikukokoro@yahoo.co.jp

Ⅲ. 研究成果の刊行に関する一覧表

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
田中総一郎	医療と生活、両面からの支援	田中総一郎、菅井裕行、武山裕一	重症児者の防災ハンドブック	クリエイツかもがわ	京都	2012	10-27
落合達宏	拓桃医療療育センターの経験	田中総一郎、菅井裕行、武山裕一	重症児者の防災ハンドブック	クリエイツかもがわ	京都	2012	34-47

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Tanaka S	Issues in the support and disaster preparedness of severely disabled children in affected areas.	Brain Dev	35(3)	209-213	2013
Nakayama T, Tanaka S, Uematsu M, Kikuchi A, Hino-Fukuyo N, Morimoto T, Sakamoto O, Tsuchiya S, Kure S.	Effect of a blackout in pediatric patients with home medical devices during the 2011 eastern Japan earthquake.	Brain Dev			In press
田中総一郎	被災地での重症心身障害児支援	日本小児科医会報	43	95-100	2012
田中総一郎	災害と子どもたち、笑顔を守り未来を築くためにできること一小児在宅医療における災害への備え	ネオネイタルケア	25(5)	78-81	2012
田中総一郎	東日本大震災と障害児医療	障害者問題研究	40(2)	44-51	2012
田中総一郎	重症心身障害児者への援助と支えてくれた言葉	小児科臨床	65(10)	2131-2136	2012
田中総一郎	東日本大震災の中での重症心身障害児者支援活動報告	両親の集い	666	2-16	2012
奥山眞紀子	トラウマを理解し、予防する周囲の関わりが大切—震災が子どもに与えた影響	灯台	620	83-85	2012
奥山眞紀子	子どものPTSD対応とそのケア	世界の児童と母性	73	16-19	2012
奥山眞紀子	子どもにみられる災害ストレス反応の特徴と対応方法	Pharma Medica	30	19-23	2012
奥山眞紀子	東日本大震災に被災した子どものこころとそのケア	月刊福祉	95	42-43	2012
奥山眞紀子	災害が子どもに及ぼす精神的な影響とそれに対する支援	保育界	556	20-21	2012

本間博彰　他	東日本大震災と子どもの心のケアについて(報告)	児童青年精神医学とその近接領域	53(2)	128－136	2012
本間博彰	「被災地」を子どもたちとともに生きて、－支援者の思いと実践	世界の児童と母性	73	37－41	2012
Wada A, Kunii Y, Matsumoto J, Itagaki S, Yabe H, Mashiko H, Niwa S	Changes in the Condition of Psychiatric Inpatients After the Fukushima Disaster.	Fukushima J Med Sci			In press
Yasumura S, Hosoya M, Yamashita S, Kamiya K, Abe M, Akashi M, Kodama K, Ozasa K; Fukushima Health Management Survey Group.	Study protocol for the Fukushima Health Management Survey.	J Epidemiol.	22(5)	375-83	2012
矢部博興、三浦至、板垣俊太郎、勝見明彦、志賀哲也、貝淵俊之、樋代真一、安藤海香、伊瀬陽子、大口春香、浅野聡子、太田貴文、高橋高人、及川祐一、本谷亮、大川貴子、加藤郁子、大竹真裕美、増子博文、中山洋子、丹羽真一	大震災および福島第一原発事故後のメンタルケア報告　福島県沿岸地域における精神医療の現状と今後の課題	Surgery Frontier	18(4)	353-6	2011
和田明、國井泰人、松本純弥、板垣俊太郎、三浦至、増子博文、矢部博興、丹羽真一	原子力発電所事故後の福島県における精神科新入院の状況	臨床精神医学	40(11)	1423-9	2011
八木　淳子	東日本大震災における子どものこころのケア.	トラウマティック・ストレス	10(2)	83-88	2013
八木　淳子	地域に根差したこころのケア―宮古子どものこころのケアセンターのとりくみから	LD 研究	22(1)	22-27	2013

Ⅳ. 研究成果の刊行物・別刷

第1章 医療と生活、両面からの支援

宮城県拓桃医療療育センター／地域・家族支援部／小児科医療部長
田中総一郎

東日本大震災では、重い障がいのある子どもも犠牲になりました。石巻市に住む高校二年生の狩野悟くんもその一人です。難治性のてんかんから寝たきりとなり、在宅人工呼吸器と酸素療法を受けながら石巻支援学校へ通っていました。気管軟化症による突然の呼吸困難がたびたび起こりましたが、ご家族と支援学校の先生方や看護師さんの手厚いケアのおかげで、地域生活を続けることができました。

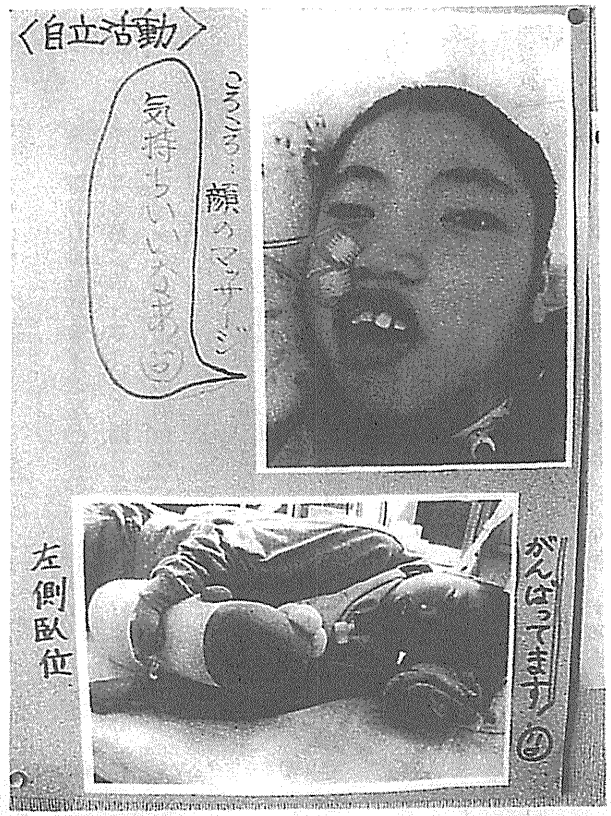
当時、悟くんは自宅にいました。押し寄せる津波は平屋建てのお家を飲み込んでしまいました。本当に一瞬の出来事でした。

四月二三日の夜、私たちは石巻支援学校へ泊めていただきました。その部屋は悟くんの教室で、壁一面に元気な悟くんや級友の写真が飾られていました。まるで悟くんに見守られているような夜でした。

最近、お母さまとお電話でお話しました。「つらい出来事だけれど、経験したことを伝えることで何かのお役に立てるならうれしいです」と。そして、「悟の存在を、みなさんの心の中に留めておいてほしい」とおっしゃっていました。ご家族から、先生や看護師さんから、宮城県拓桃医療療育センターのスタッフから、こんなに大切に守り育てられた悟くんのことを、私は忘れることができません。

このように命を失った子どもたちがたくさんいます。そのことを私たちは記憶しておきましょう。

震災当日からの記憶をたどりながら、重い障がいのある子どもたちがいかに生きぬいたか、支援の様子を振り返りたいと思います。



教室の壁に貼ってあった悟くんの写真

1 最初の支援——安否確認とニーズの聞き取り

三月一一日の震災後、患者さんとの連絡が取れなくなり、被災地の重症児は、どんなことで困っているのか情報がなかなかつかめませんでした。三月一四日、テレビやラジオを通して、外来患者さんへ医薬品対応の情報などを流していただきました。拓桃医療療育センターのある仙台市太白区秋保地区は、三月一六日にやっと電話がつながるようになりました。内服薬や衛生材料が切れる心配があったので、外来受診の予約表を見ながら一一日以降の予約の患者さんから順に電話をかけました。

ガソリンが極端に不足していた頃でした。自家用車から電源確保しているために、車で医療品を拓桃医療療育センターまで取りに来ることができない方がたくさんいらっしゃいました。物品の節約やリユースの方法をお伝えしたり、てんかんの薬や経腸栄養剤など、一日も欠かすことができないものについては、日本メガケアの武山さん（現在、アライブ）に協力をお願いして直接お届けしました。三月二一日は仙台市宮城野区から東松島市を経由して石巻市へ九軒、三月二二日は仙台市泉区から登米市や栗原市へ五軒という形で、地区ごとにまとめてお家を回っていただきました。

在宅人工呼吸器と酸素療法の患者さんの安否が最も心配でしたが、こちらは複数の医療機器業者さんが、いち早く連絡を取り安否確認をしてくれました。在宅人工呼吸器の患者さんのほとんどが医療機関へ入院していました。

津波被害の大きかった沿岸部のご家庭には、固定電話ではなくご家族の携帯電話の情報が役立ちました。携帯電話の番号はもちろん個人情報ですが、もしものときのためにと、普段から外来担当看護師が、一人ひとりていねいに聞き取ってくれていたことがとても役立ちました。

沿岸部でも臨時の発電機が設置され、携帯電話の基地局が復旧し始めた三月一九日、石巻の伊勢知那子さんと連絡がとれました。知那子さんは石巻市立湊中学校の二年生で気管切開と胃ろうのある重症児ですが、地域で暮らしたいという願いから地元の小中学校で学んできた子です。障がいの有無にかかわらず、すべての子どもが地域の学校で学ぶという「宮城県障害児教育将来構想」のモデル事業を生み出したお子さんでもあります。

伊勢知那子さんとお母さま（右）

知那子さんご一家は、母校でもある湊小学校の避難所に、同じ町内会の方々と一緒にいました。「避難所には救援物資が届きはじめていますが、そのおむつはご高齢者か赤ちゃん向けのものばかりで、障がい児がよく使う中間のサイズ（体重一五～三五キログラム用）がありません」また、避難所では歯ブラシやおねしょパッドが必要と聞きました。歯ブラシなどの不足は、一〇〇〇人以上も収容された避

難所の衛生面が整っていなかったためと考えられます。また、おねしょパッドのニーズは、避難所でせっかく用意してもらったきれいなお布団に、普段は失禁をしないお年寄りや子どもたちが慣れない避難所生活で失禁をしてしまうからだそうです。現場のニーズを直接伺えたおかげでわかった情報でした（第2部、コラム⑧、215ページ参照）。

2 救援物資の要請

三月二〇日、医療系（蔵王セミナー：日本小児神経学会の有志による情報交換を目的とした会）と福祉系（医療的ケアネット：医療的ケアを推進する保健・医療・教育・福祉のメンバーによるネットワーク）のメーリングリストを通じて支援をお願いしました。このメールに対する反応はすばやく、二〇日の二三時に出したお願いのメールに対して、四五分後からお返事があり、翌日一日だけでも四〇件もの励ましのメールをいただきました。早くも二二日夜には東京へおむつが到着し、二四日には最初のおむつが、気仙沼支援学校と石巻支援学校の子どもたちへ届けられました。

物資を送ってくださったのは、医療では全国の療育センターや歯科医院、教育では特別支援学校の先生方やPTA、企業では歯ブラシ製造販売企業など、福祉では各地域の福祉施設、たくさんのご家族の方々で、合わせて七七か所からでした。おむつは四〇〇袋以上、歯ブラシも三〇〇〇本以上、おねしょパッド、タオル、下着、防寒服、マスク、食糧などを送っていただきました。

なかには、医療機関や福祉施設の買い置きのおむつを分けていただいたところ、ご自分のお子さんのおむつを分けてくださった方もいらっしゃいました。関東などでは先行きの心配からおむつなどの買占めがあったようで、朝早くから並んでやっと二袋を獲得した、アマゾンで購入したという方もいらっしゃいました。本当にありがたかったです。

おしり拭き、手袋、マスク、手指消毒用アルコールなどは、阪神・淡路大震災を経験された方から、経管栄養のイルリガートルや注射器、胃ろうの接続用コネクター、経腸栄養剤などの医療品は、

みなさまの励ましとあたたかいメッセージに感謝しています。

みなさまのお言葉に甘えまして、もし、よろしかったら助けていただきたいと思ってメールしました。
拓桃医療療育センターもやっと電話と電気が来て、宮城県各地の患者さんの情報が入り始めました。メールは今日初めてつながりました。
沿岸部に住む患者さんたちは、いのちからがら避難してきて、お薬や物品を流されたまま避難所にいました。電話が通じるようになって来ましたので、安否確認をしていますと、お薬が足りなくなっても、ガソリンも車もないので、拓桃医療療育センター（仙台市の西側）まで取りにいけない方がいらっしゃいました。処方と物品を個別に配達を始めましたが、一番困っているのが、おむつだと聞きました。赤ちゃん用と高齢者用のおむつは物資として入ってきているようですが、ちょうど中間（体重15～35kg用）の障がい児用のおむつがなく、困っている子が多くいます。

お忙しいみなさまにたいへんなお願いをして申し訳ございませんが、もし、お近くで売っていましたら、下記まで郵送していただけますでしょうか。
おむつ：エリエール、グーン、スーパービッグサイズ、前テープタイプ
郵送先：〒174-0041 東京都板橋区舟渡1-12-11 ヘリオスビル5階 日本メガケア
電話：03-5914-3012
FAX：03-5914-3013
「仙台営業所 武山さんへ」と付記ください

本当にすみません。どうか宜しくお願いいたします。

3月20日の救援物資お願いのメール内容

医療的ケアをされているご家族から送っていただきました。

メーリングリストでは、送るときの注意事項として「段ボール箱には内容、サイズと数量をマジックで明記する」など、支援に役立つ情報を発信してくださる方もいました。いかに普段から障がいのある子どもたちの生活を真剣に考えているかが伝わってきました。

三月二〇日におむつ支援のお願いメールを出したときは、お返事がいただけるかと内心びくびくしていましたが、その反応の早さと大きさに正直驚きました。メーリングリストの先にはたくさんの支援者が待っていてくださったのです。みなさんがおっしゃるには、「テレビなどで震災被害の様子を見ながら何か援助したくても、その方法がなかった」具体的な情報(何をどこへ)さえ伝われば、どんなに離れていても支援してもらうことができたのです。きっとみなさんは、おむつ袋の先に子どもたちの安心する顔を思い浮かべながら、荷造りをしてくださったのでしょう。私たちは、救援のお願いに応えてくださった方々、一人ひとりのお顔を拝見しながらお礼を申し上げたいです。

3 救援物資の流れ

全国から宮城県への物資の流れは次のようにしました。はじめは仙台まで宅配便が届かない状況でしたが、関東への配達は可能と情報を得ましたので、全国のみなさんから日本メガケア東京本社あてに宅配便で送っていただき、そこから緊急車両扱いで東北自動車道を通って仙台へ輸送しました。本社の事務所にはたくさんの段ボール箱が連日送られてきて、人が入れなくなるほどだったと後から伺いました。許可をいただいた役員の方々の英断に感謝です。

三月二二日からは、各宅配便の仙台営業所まで配達ができるようになり、メーリングリストに「仙台営業所止め」と郵送先の変更をお願いしました。刻一刻と変化する状況を的確に支援者の方々へ伝えるには、インターネットの力がとても大きかったと思います。

物資は三月二二日から四月二〇日までの間に、被災地に直接お届けすることができました。支援学校一二校、沿岸部の市町村福祉課一〇か所、避難所や福祉団体七か所、患者さんのご自宅一四か所の合計四三か所です(表1)。届けた先からは、お母さんたちの情報網によって、たくさんの方におむつをまわしていただくことができました。一軒に届けるとその先にたくさんのご家庭がつながっていたのです(次ページ、写真4)。

物資の輸送は、アライブの武山裕一さ

表1 ●おむつなどのお届け先一覧

3月24日	気仙沼支援学校4袋、石巻支援学校9袋
26日	気仙沼市12袋、気仙沼支援学校5袋、気仙沼総合体育館8袋、個人宅2袋
27日	多賀城市10袋、利府町5袋、塩釜市5袋、松島町3袋、東松島市10袋、石巻市25袋、個人宅4袋
29日	古川支援学校10袋、名取市5袋
30日	迫支援学校18袋、金成支援学校18袋、唐桑町２袋、たすけっとCIL10袋
4月1日	利府支援学校10袋、多賀城市6袋
3日	名取市7袋、亘理町5袋、亘理町社会福祉協議会6袋、山元支援学校20袋
5日	光明支援学校9袋
6日	石巻市68袋、たすけっとCIL20袋
11日	角田市2袋
18日	山元支援学校20袋、視覚支援学校5袋
20日	気仙沼支援学校20袋

▶日付と届け先／おむつの袋数の一覧
(歯ブラシ・尿取りパッド・おねしょパッド・洋服・下着・タオルなども一緒に届けました)